

刻む会

たより

NO. 10

1994. 3. 8

長生炭鉱の「水非常」を

歴史に刻む会

(代表 山口 武信)

宇部市常盤一―一九(陣内)

083612118003



西女 胡玉 圭吉

第三回の「水非常」犠牲者追悼行事が一月二十八日から三日間、韓国より遺族九名をお招きして無事終了することができました。第一日は市、県への要請行動、第二日は追悼式、市民交流会、会員との懇親会、第三日は「海の墓標」交流コンサート開催というスケジュールでした。以下「特集号」として報告します。

追悼会
名簿
市、県への要望書
(生)
寄稿文 (福田フジ子)
(史)

- ①来日朝
- ②「刻む
- ③随行記
- ④弔辞 (
- ⑤寄稿文 (福田フジ子)
- ⑥会計報 (史)

《来日韓国遺族の名簿》

犠牲者	遺族名	関係	年令
金 在成	金 永鉉 (김 영현)	甥	54
孫 長平	孫 鳳秀 (손 봉수)	孫	37
金 七星	金 榮基 (김 영기)	養子	42
南 浩徳	南 東旭 (남 동욱)	子	55
具 守命	具 昌孝 (구 창효)	子	54
楊 任守	楊 玄 (양 현)	甥	48
張 泰俊	鄭 玉花 (정 옥화)	息子の嫁	57
白 漢欽	白 澄子 (백 청자)	娘	55
金 在成	任 安心 (임 안심)	甥の妻	50

一、今なお海底に眠る人々の「墓標」とも言うべき「ピヤ」を保存すること。
このために関係機関に徹底して頂きたい。

二、強制連行・強制労働の実態を正しく歴史に刻むための証言や資料を集めること。このために資料の公開・収集を積極的 にすすめて頂きたい。

三、日本人としての謝罪を含めた文言と犠牲者全員の氏名を刻んだ碑を建立すること。
このために行政上の支援・斡旋をして頂きたい。

(以上3項目は当会の目標として掲げているもの)

四、再度の訪日遺族の訴えに対し、人道的立場・平和希求の観点からこれに応え、先進的な行政の実を挙げることににより国際的信頼を回復して頂きたい。

随 行 記

事務局 陣内 厚生

今年で三回目の長生炭鉱「水非常」犠牲者追悼式を韓国より九名のご遺族を迎えて無事挙行することができた。

このために諸々の準備と多くの人々によるご支援ご助力などが積み重ねられた結果である。各方面のご関係の方々、及びこれに協力頂いたすべての方に感謝の意を表したい。

* * * * *

さて、昨年七月より事務局をあづかった私にとって、このたびの追悼式は何もかもが不安だらけ。事務局のみんなに聞き合わせ、見よう見まねでとりくんだ数カ月であった。準備が遅れないように、手ばかりがないうようにと思いつながらとりかかったはずなのに、事務局会では回数を重ねるがあまり進展しない。いや、私の仕切り方がまずいためそうなってしまうことが多く恥じ入るばかりだった。

そんなわけで大幅に遅れた招聘場の送付は、在韓の遺族会の皆さん、特に会長さんをハラハラさせたに違いない。しかし、国際電話や、仲介役の東さんの訪韓などによつ

て事前の下話が一応できていたので、事なきを得た次第である。

もちろん、交渉ごとは国際間になるとなかなか思うようにはかどらないことが多い。従って事前の交渉で詰めておかなければならなかったことがいくつもあったが、ついついあいまいなままで見送らざるを得なかったことも・・・その辺りはもどかしい思いを抱きながら、言語の壁、習慣の違い、そして加害者側である国の者と被害者側の遺族感情との差などこんな身近に覚えたことはかつてなかった。

* * * * *

一月二八日(金)、ご遺族の皆さん来日の日(三日間の予定で宇部に滞在していた)だくことにしスケジュールを決めたが、果してこれが最適であるかどうかはフタを開けてみなければわからない。前夜までにいろいろと考えられるだけの準備を終え、本番の朝を迎えた。七時に事務局集合、井上さん運転のマイクروبス、そして山口代表をはじめ七名が乗り込み下関フェリーポートにお客さんを迎える。YAB山口朝日TVのクルーがこの三日間を密着取材することと、下船口に待機していた。到着、なつかしい一年ぶりの金会長のお顔、他に

二名の再来日組を含め、男性六名女性三名の計九名と対面、歓迎のあいさつを交わす。聞けば十一名の予定だったのが直前の病気のため加われず、九名しか乗船しなかったとのことで、やや淋しさを感じたがやむを得ない。お互いの名札を胸につけることとし、お顔と名前を覚えようと努める。この方々の表情はすぐにうち溶け合ったもの、一人ひとりの半世紀をこえるその生き方を思うと、戦争時のあの水非常の犠牲による家族内の痛み、患難辛苦をなめてこられた過去をひきずったままであることを想像する。実にこの方々も歴史の証人たちなのだ。

一行は早速マイクروبスで韓国領事館に表敬訪問。領事による激励を受けた。続いて好天気の間門海峡を眺めながら十一時宇部市役所着。実現するとは思っていなかった藤田市長との直接面会ができ、対市交渉。昨年に続いて同内容の要望を提出したが、市の対応は「のれん」に腕押し之感を免れなかった。

午後一時県庁着。職員食堂で昼食後、国際交流室で対県交渉。やはり宇部市と同様に具体的な回答が得られず、遺族会の皆さんはやり場のない憤懣をあらわにしておられた。市、県とも二月末までに文書で回答

することを約したが、感觸としては心もとない。しかし、県の動きには前向きに受け止めようとする意図が少しは見られたのが今後の対話の継続につながるだろう。

さて、県庁をあとにした一行は秋芳洞見学へ。雪が舞い始め急に冷え込んだ景勝地を楽しみ、つかの間の気分転換ができた。あとで知ったことだがこの日の夕刻から秋吉台は大雪となり二五センチも積もったとか。ギリギリのところまで宇部へ戻り、宿舎の海員会館に入った。

* * * * *

二九日(土)宇部地方も朝から降り続く雪。一行と共にまずは長生炭鉱跡の見学へ。通訳者の不足を補って下さる在日女性の応援を得て大助かり。現場は空も海も鉛色。ボタ雪がますます激しさを増して、人っ気のない雪景色は遺族の方々にとってはいっそう悲しみを募らせる情景と映ったに違いない。女性方はピーヤに向かって慟哭の声をあげておられたのが印象的だった。

続いて西光寺訪問。犠牲となられた人の位牌との対面はやはり訪日の重要な目的の一つである。思い思いに記念写真を撮り合う。

午後の追悼式の開催が雪のために危ぶま



【追悼式の内容】

- | | |
|--------------------|-----|
| 1、開会のあいさつ | 井上 |
| 2、黙禱 | 全員 |
| 3、主催者あいさつ | 山口 |
| 4、遺族代表あいさつ | 金会長 |
| 5、碑文の朗読 | 佐藤 |
| 6、チェサー | 遺族会 |
| 7、追悼歌(外ヒョンナリ・アリラン) | 全員 |
| 8、献花 | 全員 |
| 9、閉会のあいさつ | 井上 |

※通訳 哀 基秀

れる中、私たちスタッフは天気予報を聞いたり、海岸の下調べをしたりでヤキモキする時間が続いた。

お昼、「刻む会」の女性有志らの手作りによるブタ汁とおにぎり、中華ちまきを食べ終わった頃、一転、空は明るくなり始めた。メインの追悼式は予定通り挙行の運びとなる。一般参列の方々も続々とかけつけて下さり、青空と陽ざしの下で四〇分程の式をとり行うことができた。形式は昨年と同様、葬服を装った遺族の皆さんが中心で、テント内に設けられた祭壇の前で一定の祀りをする方法。とりわけ弔辞の朗読の時には一同涙を禁じ得なかった。参列者はおよそ一四〇名。全員が海に花を献げて終了した。



このあと地元の自治会館を会場にして、市民交流会を開催。一〇〇名近い人びとがこれに集まった中で、山口代表と澄田前事務局長に対し、遺族会より感謝の楯が贈呈されたことを特筆しておきたい。私たちの運動が真に心のふれあいまでに達したことの証左であろうと思う。

さて、この夜「刻む会」主催のご遺族との懇談会が海員会館でもたれた。宇部での

緊張の連続であった皆さんはようやくくつろいだ表情を見せ、私たち日本人側参加者と共に、うち溶け合うことができた。総勢四〇名を上回る参加者が心ゆくまで歌い、踊り、興じ合った思い出深い夜となった。

* * * * *

三〇日(日)、朝から「刻む会」有志の案内で常盤公園の見学をする。ここを訪れるのは、来日三度目の金会長さんも初めてで、ようやく実現した。石炭記念館を皆さんはどんな思いで見られただろうか。あそこは、産業報国に殉じた朝鮮人炭鉱夫たちの影はこれっぽっちも見当たらないのだから。一行は敦煌中央店で滞日最後の昼食。

さて、午後二時よりイベントホール「パティオ」で『海の墓標』交流コンサートを開く。K.R.Y.テレビドキメント「海鳴りの歌」がきっかけで作られた女声組曲、長生炭鉱の悲劇をうたったコーラスを徳山の合唱団コールピリアが演奏して下さった。釜山の権花舞踏団の踊りも披露されたり、最後には遺族代表の金会長によるアピールがあり、聴衆の胸をうった。宇部での初演を実現して下さったソプラノ歌手の大成さんとの出会いも、この機会の与えられた広がりのひとつである。

時間が迫ってきた。一行は顔見知りになった「刻む会」関係者多数と別れ、マイクロバスに乗り込む。Y.A.Bの取材クルーもチャンスを逃すまいと同乗し、車中で遺族の皆さんをつかまえてはインタビューの連写。最後にきて、ようやく心の奥の思いを披露されていた気がする。夕方五時を回る頃、下関ポートビル着。慌しく帰国手続きを終えた一行と私たち見送りの来た一〇名の「刻む会」メンバーとは、握手を交わしながら再会を約した。通じなかった言葉も、この期に及んでボディランゲージや目の表情で、かまわず交信できてしまうのが不思議である。一行が手をふりながら乗船口に消えるのを見届け、三日間のスケジュールの終わったことを熱く体感した。

* * * * *

私にとっては、荷の重すぎる務めではあったが、「刻む会」のこれまでの運動の積み重ねの上に実施されたこと、関係者の長期間にわたるご協力が奏効したことが、これだけの活動の実を挙げることにつながったと思う。本当に感謝に堪えない。残されている問題は多く、いや何も解決されてはいない。これからの運動の展望は、私たちの取り組み方一つにかかっているのではないと思う。

一九四二年 二月三日！

この場所 長生炭鉱 その驚くべき 悲劇の中で
眼さえ 閉じることのできない お父さん！

日本帝国主義の 鞭に打たれ、

暗い 坑内に 這って行った お父さん！

未だに 眼を 閉じることのできない

一三四柱の お父さんたち・・・

あなたがたの 辛さと

あなたがたの 恨みの声を 聞こうと

子供たちが 再び この場所に やって来ました

美しかった 故郷 慈愛深かった 父母様 多情な

人たちに 背を向けながら 強制徴用により この遠い

異国の地 長生炭鉱 海の底に 閉じ込められた その

恨みの声を 聞こうと 子女たちが やって来ました

あり 悲しくも 悲しい

あり 恨めしくも 恨めしい

あり 悔しくも 悔しい

私 誰のために この遠い 異国の地

深い海の底に 閉じ込められたのか

私 誰のために この遠い 異国の地

深い海の底に 閉じ込められたのか

私は すでに 死んだけれども

私のなきがらは 腐りきれず

半世紀が過ぎてても このように 苦痛なのだろうか

冬が 訪れたら 身の毛がよだち

夏になれば 息が つまるような 光ひとつない

この深い 海の坑内の中から 私を 引き上げてくれ

お父さん！ 私のお父さん！

ここに 白い布地が 一枚あります

悲しみに 血が涌き その恨みに 海を涌かせ

あなたの なきながら くさらずにいる

今 私たちの手に 清い布地を もってつつみ

故郷に つれて帰ります

遠い 異国の地 海の底から 出てきて

今や 帰りましょう

眠れない 靈魂たちよ・・・

今 恨みの歳月を越え 故郷の丘に 帰りましょう

夢にまで 見たかった故郷

懐かしい 父母がいらっしやる 故郷の地

先祖たちが 眠っている その山に 帰りましょう

今日も 安らかに眠れない 海底の人たち・・・

故郷の地で 真に安らかに 眠って下さい

一九九四年 一月二九日

長生炭鉱水没犠牲者大韓民国遺族会

代表 孫 鳳秀 (ソン ボンス)

追悼会に参加して

宇部市 福田 フジ子

長生炭鉱の水非常を歴史に刻む会の方々が、今年も韓国から九名の犠牲者の遺族の方たちを日本に招かれ、あの海岸のテントの下で追悼会を行いました。

海底炭鉱の天井がこわれ海水が入り、そこで働いていた人が犠牲になられたと私の子供のころ聞いて知っていた大変な事件でした。

五二年も過ぎた今でも真冬の海水の中で犠牲者（一八三名）はそのままです。

その犠牲者の多くが韓国から強制連行された朝鮮人徴用工の方々でした。

犠牲者の遺族の人たち（子、孫、甥等）が昨年と同様韓国から来られた。

私は昨年の追悼会はテレビで西岐波海岸であることを知り、雪が降っていたがバスに乗り一人出かけました。

今年もやはり雪の二月の海岸で追悼会が開かれたのです。この水非常を歴史に

刻む会の方々の経済的や足と耳と手を使われてのお仕事に、涙ぐましいご努力に頭の下がる思いです。歴史的な大変な事故を正確に調査して記録に残すことは、とても地味な働きです。

韓国から来られた遺族の方と日本人で共に供養が始まりました。遺族の一人の彼女は「五〇年も前におばあちゃんから父が海の中で死んだことを聞いて、五〇年後の今日まで私の胸を痛めてきたが、今日日本に来て父たちのためにこんな供養がされていたことで私の心のしこりが感謝に変わりました。」と通訳を通じて

のことばでした。

海岸のピーヤの見える所で彼女は大声で父親によびかけて泣かれ、動こうとされませんでしたが。その場にいた私たちも涙涙でした。

それまで雪でしたが、「安らかに寒い海の中でしょうが眠って下さい」と祈って海にみんな花を投げ始めたとき、それまでの大雪はびたりと止み、青空すら見え光もさしてきたのには驚きました。海の中のたくさん犠牲者の喜びではなからうかと思いつつ帰りました。

「恨みの歳月を 超えて故郷へ」

追悼式に韓国の遺族

宇部・旧長生炭鉱



犠牲者の眠る海に花をささげる遺族
=29日、山口県宇部市西岐波で

1994年 1/30付 朝日新聞(宇部)